

日本野鳥の会 2017 年度 保護活動トピック！

2017 年より「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」を通じて、日本野鳥の会の保護活動にご支援をいただいております。ここでは、日本野鳥の会の 2017 年度の主要な保護活動の成果やトピック、また「里帰りプロジェクト」に関連した活動についてご紹介します。

1. 日本野鳥の会の活動 2017 年度トピック

(1) 自然保護活動トピック

①シマフクロウの保護活動

森林を代表する絶滅危惧種シマフクロウの保護活動では、北海道・釧路地域の野鳥保護区で当会が初めてかけた巣箱から、初夏に 1 羽のヒナが巣立ちました。環境省の調査では、このヒナを含め、当会の保護区を利用している 5 つのつがいから 5 羽のヒナが巣立ったことがわかり、野鳥保護区の大きな成果となりました。



シマフクロウは、河川や湖沼周辺の森林に生息する魚食性の世界最大級のフクロウです。明治期までは北海道内に広く生息していたとされますが、繁殖に必要な大木が森林伐採等により喪失し、餌の魚類が河川改修などにより減少したことで数を減らし、絶滅の危機に瀕しています。現在は北海道中部から東部にかけて約 160 羽程度が生息するのみです。

日本野鳥の会では、2004 年より生息地の民有林を買い取って独自の野鳥保護区としているほか、森林環境の整備のような長期的な活動と、生簀による給餌や巣箱設置などの当面の絶滅を回避するための保護活動を行なっています。

②オオジシギの保護活動

原野を代表する渡り鳥で絶滅のおそれがあるオオジシギと、その生息地である北海道・勇払原野の保全を目指す「オオジシギ保護プロジェクト」を 2016 年度から取り組んでいます。今年は勇払原野の繁殖状況を知るための調査を行い、2001 年の調査と比較して、個体数が約 3 割減少していることが明らかになりました。今後、さらに調査範囲を広げて、具体的な保全策を検討していきます。



オオジシギは、北海道を主な繁殖地とし、本州や九州、またロシア極東の一部でも繁殖が確認されているシギの仲間で、秋から冬にかけて南半球のオーストラリアで越冬します。体長は約 30cm、体重は 170g ほどで、ハトより一回り小さい程度の大きさです。

日本野鳥の会では、2016 年から、明らかになっていないことの多いオオジシギの生態について調査を行い、その結果をもちいて普及活動や生息地の保全を進めています。

③カンムリウミスズメの保護活動

海洋の代表種として保護に取り組んでいるカンムリウミスズメは、神子元島（下田市）で、世界初であった 2016 年度に引き続き、今シーズンは 2 つの人工巣を利用し、2 羽のヒナの巣立ちを確認できました。今後はより多くの繁殖地に設置できる人工巣の開発に取り組んでいく予定です。



カンムリウミスズメは日本近海にのみ生息する小さな海鳥です。推定個体数は 5 千から 1 万羽程度で、環境省により絶滅危惧種に指定されています。一年のほとんどを日本周辺の海で暮らし、繁殖期にだけ無人島に上陸し、岩の亀裂や隙間などを利用して巣を構えます。しかし繁殖環境の悪化により、カンムリウミスズメの個体数は減少しています。

日本野鳥の会では、2009 年から、伊豆諸島周辺を活動地域とし、カンムリウミスズメの保護活動に取り組んでいます。最大の繁殖地である宮崎県枇榔島以外に 1,000 羽以上の規模の繁殖地を確保することを目標に活動を行っています。

(2) 普及活動トピック

① 福島応援コンサートの開催

2017年5月20日に福島市音楽堂にて、復興に取り組む福島の皆さんにエールを送るため、福島応援コンサートを開催しました。音楽作品を通じて、ツバメと原発事故後の福島の状況を多くの方に知ってもらおう内容で、福島県では2回目の開催となりました。当日は約300名の方の参加があり、浪江町など被災地から避難されている方の参加があり、終了後には、「福島の実情に正面から向かい合う作品で、元気をもらった」などの声をいただき、好評を得ることができました。



写真. 福島応援コンサートの様子

2. 里帰りプロジェクトに関連した活動について

① ツバメの小冊子改訂版の発行

- ・日本野鳥の会では、身近な渡り鳥のツバメが近年減少傾向にあることを懸念して、2012年からツバメを守るための取り組みを開始しました。全国に呼び掛けて実施した「ツバメの子育て状況調査」の結果からは、都市部では郊外や農村部に比べて、ツバメの巣が人の手によって落とされる割合が高いことが分かっています。またこの結果を受けて、より多くの方にツバメのおかれている現状や生態を知ってもらい、ツバメの子育てを見守る輪をさらに広げていくため、「あなたもツバメ子育て応援団」を制作し、無料配布を行なってきました。
- ・今回、里帰りプロジェクトからの寄付を基に、この小冊子の改訂版を5000部制作し、お申込みいただいた方に無料での配布を行いました。2017年度はツバメの繁殖期の春から夏を中心に約1,000部を配布することができました。今後もツバメをみまもってくれる応援団を増やしていくため、小冊子の配布やツバメの子育て調査を継続して取り組んでいきます。

以上



写真. 改訂版 あなたもツバメ子育て応援団